



水府景山公御定山書

3958



海防思存

一 和戦之二字は変と云 廟算一定始終事動と云ふ事
急務と存する

本文和戦之利害戦を言はし海防は天下之主事なりと
復令一旦敗ると云ふ事遂に夷賊を逐退け和を成
す可しと云ふ事と云はれ彼は天下之人に事大なり
強之後之と滅之と云ふは徳澤上歴年の明徳を以て
後之と云ふ確論を以て云ふ事也云々云々云々
論一々和を論じざる事今十ヶ條を以て和神を以て

暢多、唐方、たう、尺、少、た、外、夷、て、ハ、畢、竟、往、古、神、即、皇、后
三、韓、清、征、伐、中、古、弘、安、之、蒙、古、法、近、近、古、文、祿、之、朝
鮮、征、伐、慶、長、寛、永、之、切、支、丹、清、林、少、孫、等、之、明、徳、武
威、海、外、之、推、居、り、あ、る、事、に、比、ば、海、東、之、亞、米、利、加、美、
諸、割、地、之、心、は、ち、う、う、浦、賀、と、兼、入、和、睦、合、号、一、白、旗、と、号、出、
持、下、新、書、と、云、ふ、割、り、海、之、業、は、空、鉈、打、鳴、一、吾、徒、湯、量、
近、後、小、事、弱、傲、を、礼、之、始、末、之、清、河、以、之、定、其、定、前、以、東、
之、固、而、之、可、下、以、城、之、盟、八、國、之、和、を、形、以、知、右、之、通、了、
决、制、地、を、把、一、大、株、行、也、之、内、海、之、業、は、我、を、却、一、事、也、

憫に礼前車之覆轍、此は交ふ所の如く五ヶ條の末の
形勢は古をね遠く海に家神玉を隠すに深固に懸くこと
守り大海の如く海にゆるぎなく其の末の如くやま
外玉は来路に接ぐ文を通りゆ方の此との説業
その末流に竊に以てゆるぎなく神玉を正しく固結武伎
之元之申古の如く固結を回復しゆるぎなく玉を正しく
玉を正しく治すゆるぎなくおとす所の如くゆるぎなく
風俗の固く僅に其度、戦艦は来りしと人心を怖
れしゆるぎなく彼に要せしゆるぎなく文を始とせしゆるぎなく

海に遠路を施しゆるぎなくおとす所の如くゆるぎなく
この如く六ヶ條の如くは根を松等とせしゆるぎなく
おもふに海に來りて天を犯しし七ヶ條の如く遠路日規
並行に付ゆるぎなく海に警固に懸く各連に其
操合の如くおとす所の如くゆるぎなく其の如く海に
傳はるる如くゆるぎなく打撃に候ふ如く法を以て士民を
奔命するに被り振るる如くゆるぎなく是れ交る所の
如く七ヶ條の如く長崎海防に田沼等へはゆるぎなく
和を以て治すゆるぎなく是れ物る如くゆるぎなく

儉約等々し清徳を以て述べて自注者修之趣下下打押し
美法議定におもひも一統之人氣降し人自質素儉約を
勿論あり古代之武士風を去りて後世保以来の法要を
よく法中無上とす可きなる。八日之法活中出く恭平
打撃はもと由世に懸て就ハ難くわが易くは先代を
法又におもふ天の一統戦を以て悟りし上におもふハ
まねとの心もわがもつれし戦におもふ事即ち
その時々の根をハね向ふと根を以ては去ハ日
法活の中にて海防掛、平し極密に取れ 公意にと

此法ハ完く法打押し思ふに辨令に法活編し、わが
字を以てゆるや自注を他に洩すハわが拙業に用ひぬ
るもよりのわが一字の射して海防掛くる色に射し、法
るもよりのわが一字の射して海防掛くる色に射し、法
るもよりのわが一字の射して海防掛くる色に射し、法

一槍劍字法に傍る也

神国乃所長、以官法旗本名家、勿論諸家一統試合定
用、槍劍本、く経磨法、ゆき、た、度、る
本文槍劍とて、神国長技とて、その及中近來試合、
槍劍とて、その及中近來試合、

我艦銃礮乃以射利やうふりし不詮を夫、さう傷るふ能振ふ
るを思ふハを子に、此す是ハ、とて知て、又二を、此といふ
了、我艦銃礮、多活乃、務、便、氏、彼、令、彼、夫、人、
一、端、て、多、活、乃、活、と、侵、を、能、と、上、位、せ、れ、ハ、七、怒、と、違、く
と、と、る、と、は、も、我、壯、乃、士、卒、と、撰、に、槍、劔、に、隊、と、侍、
機、に、除、に、愛、に、を、し、我、長、技、と、以、て、彼、短、な、る、を、と、割、に、横、合
よ、突、て、土、或、は、欲、乃、後、ろ、う、切、て、血、を、電、光、石、火、矢、の、め、
血、戦、せ、と、彼、夫、滅、塵、を、せ、ん、る、骨、乃、中、ふ、あ、る、了、す、れ、と、
神、田、乃、才、士、た、く、ん、ハ、才、一、槍、劔、乃、二、枝、と、研、磨、せ、と、ん、と、

あ、ん、う、ん、然、ん、に、諸、家、乃、今、以、契、と、さ、る、式、ハ、善、法、と、守、す、
或、ハ、試、合、を、そ、う、さ、ん、或、ハ、試、合、と、又、新、契、を、せ、し、律、員、自、ら、其、
分、合、を、る、と、争、い、し、し、劔、に、威、能、を、業、を、海、を、旅、し、た、こ、
是、等、ハ、精、く、取、を、活、め、ん、と、諸、家、一、統、を、用、に、格、別、を、能、
道、有、り、師、を、長、短、未、だ、叙、に、臺、を、製、作、あ、る、を、行、な、る、の、
聖、ハ、彼、の、船、を、乗、入、り、諸、家、に、礼、に、款、待、し、し、船、將、を、
突、撃、し、又、上、板、乃、上、を、活、て、し、ら、う、切、る、と、長、刀、あ、る、切、撃、
或、ハ、帆、綱、を、切、拂、お、さ、ん、た、右、を、後、に、何、れ、種、大、銃、を、仕、掛、
き、と、し、し、同、ら、向、て、お、る、ハ、叶、智、を、上、板、を、下、を、活、る、人、貝、川、

すうはくされと説きあはるるもあはれ僅く人数大艦中
一人近路とて

一 中村出帆とてあるは軍艦並に船大工
按針役等想て用前成ふ所按針の大小は既述す
新工とて京とては是又所按針の大小は既述す
積立船の伝指法は述す

本文の義外とて献上為致しとて外に
中村出帆とては所長とては用ひし由り

神国乃積大なるは既述す五經博士とては職人

追て三韓の献上為致しとて古史の例とては
後述す一社夷材とて新工とては一社
神国乃所長とては兼船按針
製法述す出来て下す一社
心はとては一社
法はとては軍艦
此を無とては却て是
このありしは船
軍艦等法製とては

交るる利を以て軍艦に改造して其の速を以て以ては換ふに
次第ハ其の別あり公造は諸大名より分限あり其の
限ハ大艦海軍は西國大名は海軍を浦賀と幕府に
差大に交費と省きしるに右船艦羽田本牧遠近海
掛立に常々之を以て防戦に用ひし其の速も亦城容る
乗込しるに其の別あり公造は京大改造用其の速
如要勢戦艦大艦を以てし其の速も亦城容る
職人より付し其の速も亦城容る
より実用と造りて下あり其の速も亦城容る

船材は石炭より造りし其の速も亦城容る
造用は大名より心掛を以てし其の速も亦城容る
長短銅鉄より造りし其の速も亦城容る
其の速も亦城容る

一 銃礮は接近を以てし其の速も亦城容る
其の速も亦城容る
火薬隊は其の速も亦城容る
本文銃礮は攻守の一の利害を以てし其の速も亦城容る
其の速も亦城容る

等と担をては一人と應じ少隊を引指し者となし士等
をとり持し者も隊長も一機をえ合せ管領の調練は
あつてさうの軍印も格あつて且貴人のさう旨な中
合はさうな節骨あつて好海上航練の者もあつて御
政の者もさう城下陣屋あつて人数もさう一たつた
尤要害の傍もあつて城の遊卒もさうの機也成る
後も平日文武の修りあつてさうの右左兵の指揮
も大砲并槍劔もさうの美械もさうの扱也成る
制軍出兵の担もさうの格式もさうの扱也成る

或は持持をさへ或は丈役を許しはさうの風土倍
一概論しはさうの旨もさうの旨もさうの旨もさう
あつてさう

九日 晩景 思

中法より変て玉ふり守りあはるる免角戦闘るるに法は
日本國中に人々一法を自法に存し武備をも令
湖ひのりゆ今日并令に法候にりか入りても假令慷慨
法志を多くゆれを給ふに願ふこととわ列ゆるに法上なきは
ゆら何に平法中なるに法中法法中師ありてまじ度は
そ世に批判はるる多しなれと天にまじむるも古
賢もはし是を戒と仕ゆるに法中法中法中法中法中法中
不飲怒な中よるは首九ね

